

あの日の教訓を わが家の備えに

○身を守るため家具などを固定しよう

地震でけがをする原因の多くが、家具類の転倒・落下・移動によるもの。生活空間にある家具を減らし、固定しましょう。

○災害備蓄を準備しよう

3日以上の水や食料品などを準備しておきましょう。災害支援物資がすぐに届かない場合もあるため、自宅での備えが大切です。

○災害に応じて避難する場所、ルートを決めよう

各町の防災拠点センターを避難所として開放します。状況に応じて公共施設や学校も避難場所になるため、自宅周辺の避難場所を確認し、災害の種類ごとに避難する場所を決めましょう。

また、安全なルートで避難できるようにハザードマップや自宅周辺の危険箇所を確認し、避難ルートを決めましょう。

市の指定避難所は市防災ポータルサイトで確認できます。

○災害関連情報を受け取れるよう 市の情報発信ツールに登録しよう



LINE



情報
メール



市防災
ポータル
サイト



防災拠点
センター
(市 HP)



市ハザード
マップ

自分や大切な人の命を守るため、備えましょう



防災消防課
谷口 澄子 主査

熊本地震を経験して――

熊本地震で店は大規模半壊の被害を受けました。停電や断水はありませんでしたが、建物の損傷が大きく、地震直後は休業を余儀なくされました。悲惨な状況聞きつけた地域の皆さんが片付けを手伝ってくださったり、励ましの言葉を掛けてくださったりして、なんとか一部屋を改修し営業を再開しました。

しかし、一部屋のみでは経営が厳しく、建て替えを決意。建て替え期間中は松橋町豊福の仮店舗で営業を続け、地震から約3年後の2019年3月にリニューアルオープンしました。



地域の支え合いが
再建の力に

料亭さかもと屋
坂本 みつ子 さん 坂本 光一郎 さん

この時は、再建までを支え、再開を待ち望んでくださった地域の皆さんを招き、感謝の気持ちを伝えました。

地震を経験する中で実感したのは、助け合いや地域のつながりの大切さです。新しい店舗は、地域のつながりを生むきっかけとなる店にしたいという思いから、「公民館のように気軽に集まれる場所」になることを意識したつもりになりました。

これまで地域の皆さんに支えられてきたことへの感謝を胸に、これからも地域とともに歩んでいきます。



▲瓦が落ち、窓ガラスが外れ、家具などが店内外に散乱した
◀地震の揺れで床に落下した厨房内の食器(いずれも坂本さん提供)

写真パネル展

「記憶をつなぎ、未来へ
―熊本地震10年の歩み―」

期間 4月23日(土)まで
場所 イオンモール宇城
オアシスコート横

問 広報統計課 ☎ 32-1902

熊本地震から10年、 防災・減災フェスタ2026 in 豊野

日時 4月12日(日) 9時～12時 参加無料
場所 豊野防災拠点センター
内容 防災ワークショップ、災害支援車両の展示、水晶太鼓、くまモンライブなど

問 実行委員長 糸山 ☎ 090-4865-8476

熊本地震からの復興と発展を願って ―市ゆかりの画家・塔本シスコ氏の作品を寄贈―

3/13 塔本シスコ氏の孫、福迫弥麻さん(大阪府)が市役所を訪れ、「朝日が登ると松虫はおやすみ」を市に寄贈しました。福迫さんは「朝日が優しく照らす市花・コスモスが、復興を遂げた宇城市の姿を象徴しているようです」と述べ、末松市長は「寄贈いただいた作品を活用しながら、本市のさらなる発展につなげていきます」と感謝の意を示しました。



消防団だから
できることを
宇城市消防団
澤村 忠 団長

地震発生直後、消防団として倒壊した家屋の見回りや人命救助、物資の運搬などにあたりました。平常時から一人暮らしの高齢者などの状況を把握していたことで、災害時の見回りにも生かすことができました。

現在は、地震や昨年の豪雨災害の経験を基に、日々訓練に取り組んでいます。「地域のことが分かる」という、地元消防団の何よりの強みを生かし、一人でも多くの人を救うため、今後も力を尽くします。



助け合いの
大切さを実感
被災当時の
市代表行政区長
平山 隆夫 さん

代表区長として、市と各地域の区長とのパイプ役を担い、避難者の把握や情報共有などに努めました。初めての経験で、戸惑うことも多かったですが、各地域の区長をはじめ、皆さんが積極的に協力してくださったことで、乗り越えることができました。

地震を通して実感したのは、日頃から地域とのつながりを築いておくことの大切さ。地域のつながりが薄れつつある今だからこそ、意識して関わりを深めていくことが大切だと思います。